



# 第39回読売書法展 役員作品 鑑賞ガイド

いあいあり

読売書法展は伝統と古典に基づいた書の継承と発展をめざして昭和五十九年（一九八四年）に始まりました。出品約一万四千点、東京展、関西展、九州展の三会場からのスタートでしたが、今回の第三十九回展には、約二万点が集まり、全国八会場（東京、関西、中部、中国、四国、東北、北海道、九州）の各展を巡回します。読売書法会の発足以降、書壇を取り巻く環境は大きく変わりましたが、「本格的な輝き」を標榜する読売書法展は方向性を見失わず着実に歩みを進め、今日では国内最大規模の公募展に成長しました。

また、書道文化の裾野を広げるため、前回から公募の出品資格を満十五歳以上に引き下げましたが、今回も高校生を中心に若い世代から多くの作品が寄せられました。

読売書法会の役員書家は、古典を考証しながら新たな可能性を追求し、絶えず研鑽を重ねています。いまなお止むところを知らない旺盛な創作活動は、書法会の根幹を支えるだけでなく、現代書道芸術の発展に多大な影響を与え続けています。

国内書壇の最高峰を形成する最高顧問、顧問、常任総務の作品ガイドを作成しました。作者自身による制作意図を紹介しておりますので、ご鑑賞の際の手引きとしてご利用いただければ幸いです。

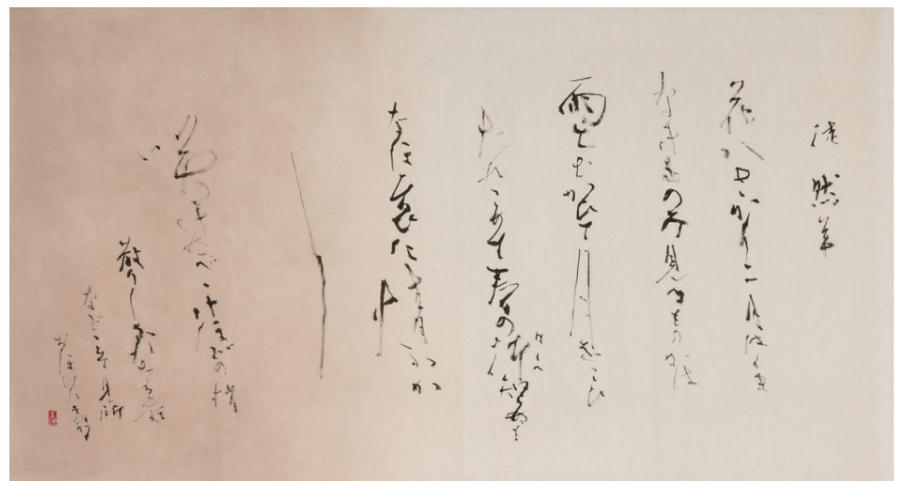
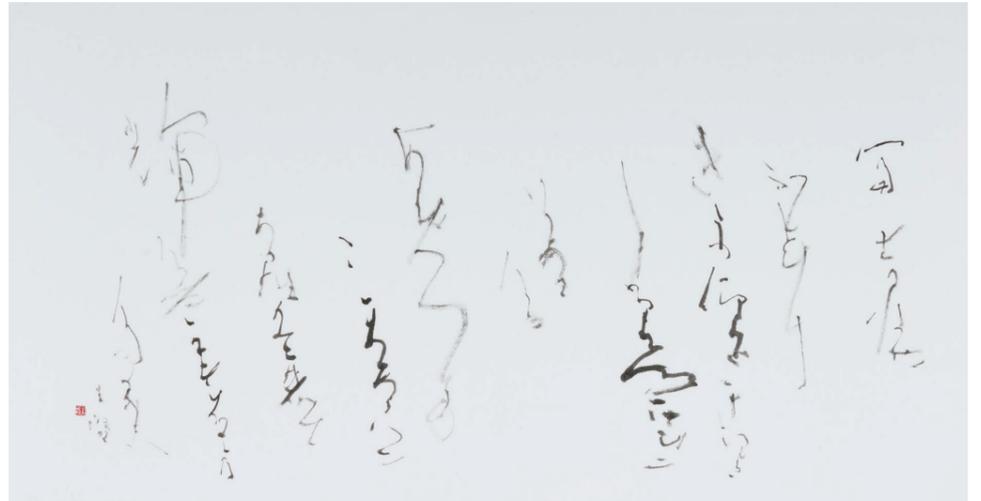
令和五年八月

読売新聞社  
読売書法会  
読売新聞社  
読売書法会  
© 2023 読売新聞社

最高顧問 井茂 圭洞



上：親しき富士（若山牧水『若山牧水歌集』）  
下：徒然草（兼好法師『徒然草』）



かな作品・調和体作品を制作する際には、かつて目にした富士を横切る異質な五層の雲の色、奥行き、重量感、動き、夕日の瞬間に輝く朱色の空など自然界の妙を筆の弾力による書線で表現出来ないかと腐心しております。

最高顧問 尾崎 邑鵬

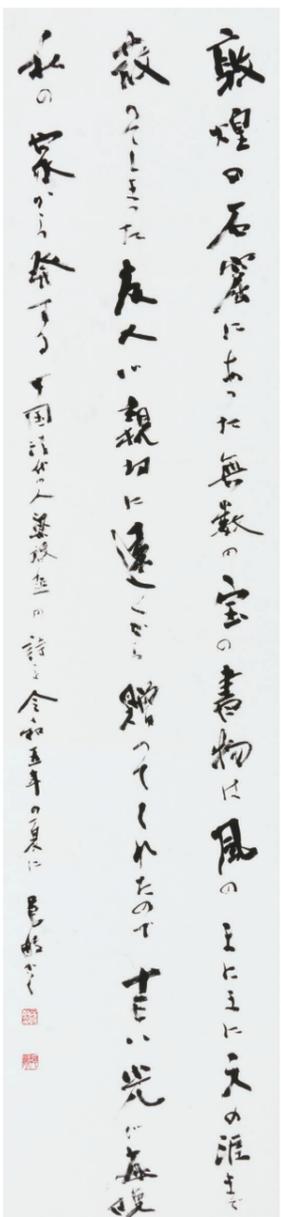


右：登樓清嘯（晋書 劉琨伝）  
左：梁啓超の詩（梁啓超）



毎回六朝風に仕上げているので今回もそのようにしました。今の力をふりしぼって書いてみました。

調和体も毎年鈴木翠軒先生のかなを思っている今年もそのようにしてみました。

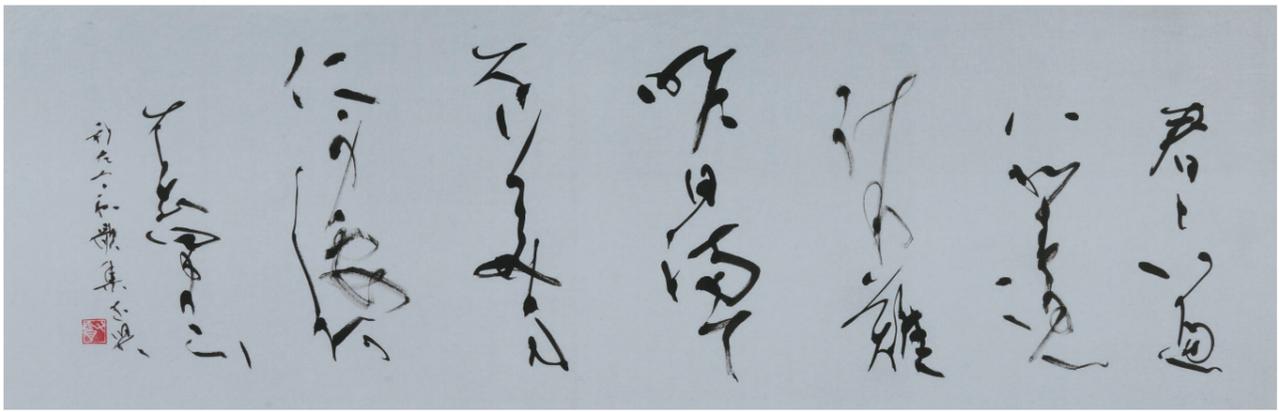




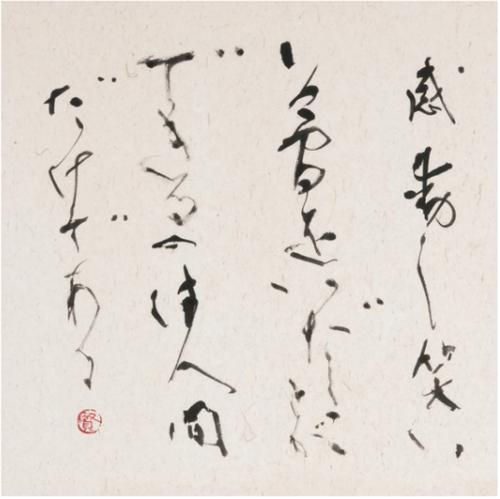
最高顧問

黒田 賢一

上..淡路島山(俊恵法師『新古今和歌集』)  
下..夢(藤尾秀昭『致知』)



日頃より淡路には縁を感じ、大きく発展する島をイメージしてスケールの大きな作となるよう願いをこめた。



調和体は長年俳句を素材としてきましたが、本年は小冊子の一文が目にとまり、自然体でとの思いで筆を運んだ。



最高顧問

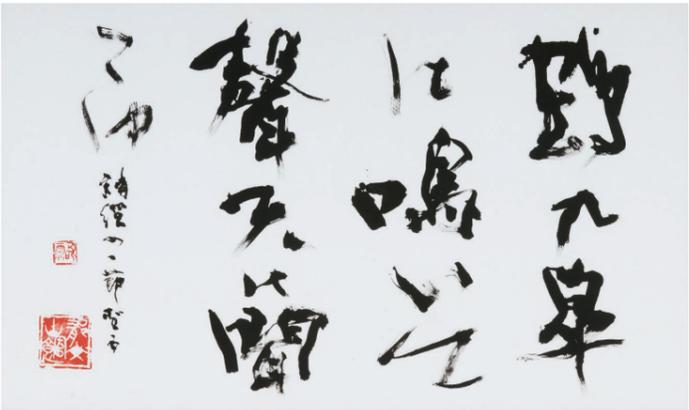
高木 聖雨

右..弘毅(『論語』)  
左..詩経の一節(『詩経』)



疎画の「弘」は潤筆で大きくして柔和に、繁画の「毅」は渴筆と強靱な線で二文字の調和を図った。

優れた人物はどこに隠れ住んだとしても必ず世間の人の知るところとなるというたとえ。放射状に伸びた線が躍動しつつ全体として一体感のある作品を意図した。



最高顧問

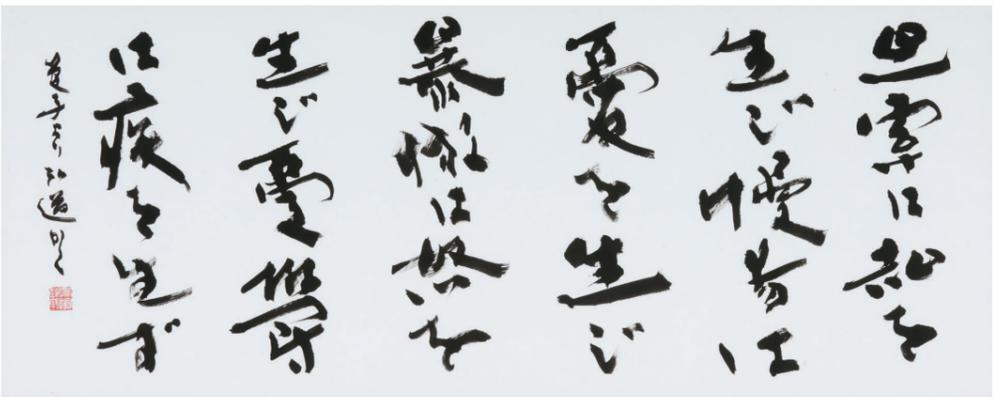
星 弘道

上..佛亦如是(『妙法蓮華経』)  
下..管子より(管仲『管子』)



難しい選文になったが、我が儘な人類に仏の大慈雨が注がれ平和に共生できることを願い書いたものです。

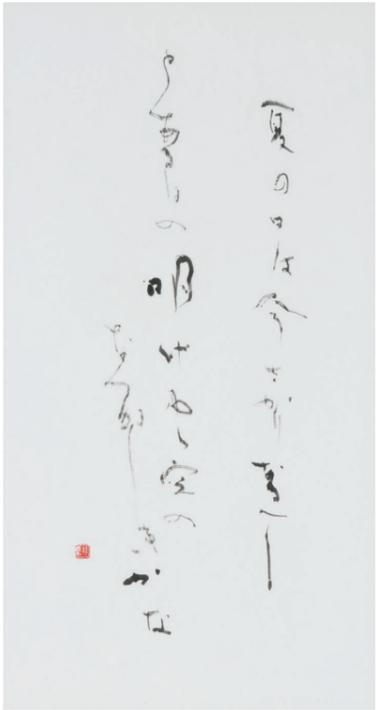
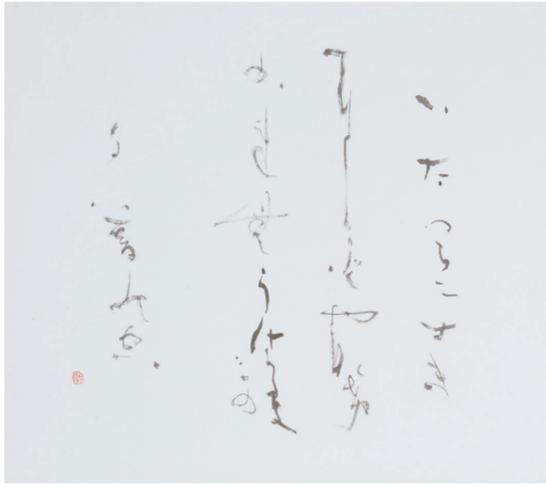
調和体の書の原典はないが、書き手の心が線と文意に顕れたら一番よいかと思いついておきます。



顧問 池田 桂鳳



上：夕暮（慈円『新古今和歌集』）  
下：夏の日（若山牧水）



静と動とのバランスをどうするか。品の良さを失わないことを常に心しています。

京都嵯峨の竹林に祇王寺の佇まい、しずかなれど心に響くその風情が大好きです。

顧問 新井 光風



上：穆清（『史記・太史公自序』）  
下：易経・謙卦（『易経』）



倒れかかった力を構成上の主要なエネルギーに変え、特質的な安定感による新鮮な響きと命の躍動を求めた。

書体は異なるも常に思うことは線の命と存在感。表現の主眼は、爽やかな緊張感と今の私の命のかたち。



顧問 樽本 樹邨

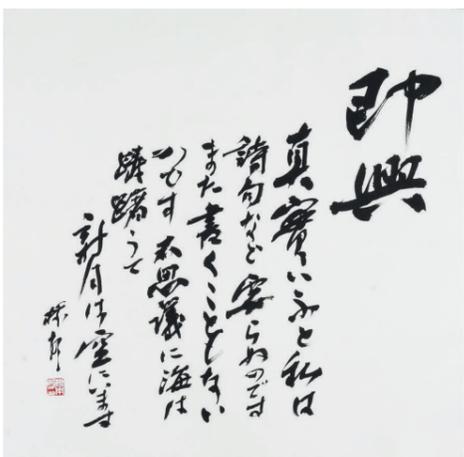


上：楽記より（福永光司『芸術論集-中国文明選14-』）  
下：即興（伊東静雄『伊東静雄詩集』）



前回の大字作品と趣向を変えた作品にした。力を入りに秘め、爽やかに書くことを心がけた。

難しい詩で苦労したが、最後の一文がうまくいったと思う。行間を明るくでき、落ち着いた作品になった。



顧問 杭迫 柏樹



上：拔本塞源（王陽明『伝習録』）  
下：学書 十ヶ条（自詠）



「信念の書」と「飄逸の書」へのあこがれは、いまだに右往左往が続いているが、今日は王陽明の信念に共鳴して。

会津八一の「学規」にならって、私の「学書十ヶ条」を...



常任総務 真神 巍堂

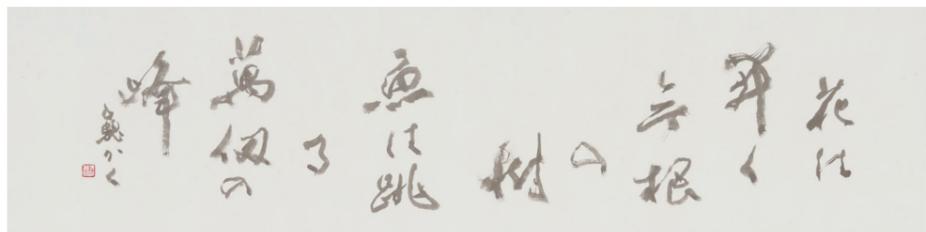


上：巖（胡居仁）  
下：無限の樹（『禅林句集』）



草書を中心にし、  
気の赴くままに運  
筆してみた。墨量  
も多くし線の強さ  
と白の美しさを出  
したかった。

仮名作品を書く  
つもりで散らし  
を交え、各々の  
文字の造形が乱  
れないよう丁寧  
に運筆した。



常任総務 土橋 靖子

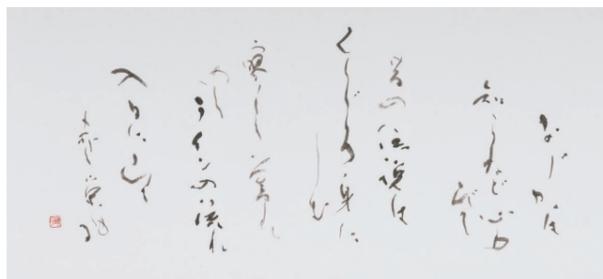


右：杉山（若山牧水）  
左：ローレイ（ローレイ<近藤朔風訳>）



縦の流れと横の動きを  
意識しつつ、おおらか  
に息長く書きたく思っ  
ました。

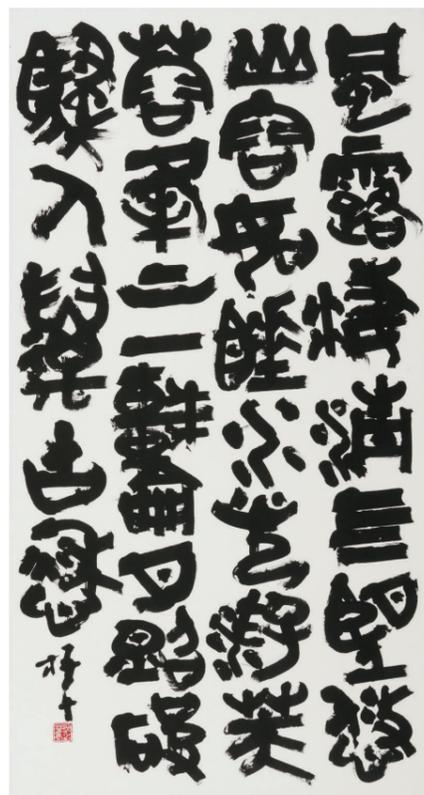
ドイツ歌曲「ローレイ」  
の日本語訳です。「素朴」  
と「味わい」を表現したい  
と念じつつ、口ずさむよう  
に書きました。



常任総務 牛窪 梧十



上：徳富蘇峰詩（徳富蘇峰自書詩箋）  
下：老鶯（自詠）



徳富蘇峰が山中湖の別荘での  
夜の富士山を詠んだ七絶。萬  
古愁の語をふまえ、右上りの  
金文を試みた。

鎌倉大仏殿で聴いた  
みごとなさえずり。  
阿弥陀にむかい、こ  
の鶯は下や顔をして  
いるのか、それとも  
放下の顔なのか。



第39回読売書法展（2023年） 会期・会場・表彰式

〔東京展〕

《第1会場》国立新美術館

8月25日（金）～9月3日（日）※29日（火）休館

《第2会場》東京都美術館

8月23日（水）～29日（火）

●表彰式 8月26日（土）ザ・プリンス パークタワー東京

〔関西展〕 9月6日（水）～10日（日）

《第1会場》京都市京セラ美術館

《第2会場》京都市勧業館「みやこめっせ」

●表彰式 9月9日（土）ホテルグランヴィア京都

〔中部展〕 9月12日（火）～18日（月・祝）

《第1会場》愛知県美術館ギャラリー

《第2会場》愛知県産業労働センター「ウインクあいち」

●表彰式 9月17日（日）ヒルトン名古屋

〔中国展〕 9月22日（金）～24日（日）

《会場》広島県立ふくやま産業交流館「ビッグ・ローズ」

●表彰式 9月23日（土・祝）福山ニューキャッスルホテル

〔四国展〕 10月13日（金）～15日（日）

《会場》サンメッセ香川

●表彰式 10月15日（日）J Rホテルクレメント高松

〔東北展〕 10月25日（水）～29日（日）

《第1会場》山形美術館

《第2会場》山形県芸文美術館

●表彰式 10月25日（水）山形グランドホテル

〔北海道展〕 11月8日（水）～12日（日）

《会場》札幌市民ギャラリー

●表彰式 11月11日（土）札幌パークホテル

〔九州展〕 12月8日（金）～10日（日）

《会場》福岡国際センター

●表彰式 12月10日（日）ホテルオークラ福岡

※今後の諸事情により日程の変更や中止になることがあります。

読売書法会公式サイト（<https://yomiuri-shohokai.com>）等で最新の情報を確認ください。

© 2023 読売新聞社 読売書法会

本ガイドの制作にあたりましては、日本文藝家協会

（許諾番号S20230703Y）の許諾を得ています。

著作権に関しては手続きを取っておりますが、お気づきの点があれば読売書法会事務局までお知らせください。